

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第2回教育環境部会 議事録

日時 令和4年5月25日（水）18時00分～19時30分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）飯尾委員、斉藤委員、勝間委員、岸委員、藤田委員、福富委員
（事務局）堀井部長、中島参与、近間総括主幹、蓬田主査
（学校）寺岡校長、松田校長、古沢教頭、林教頭

部会長: 本日は、登別中学校学校適正配置に関する地区別検討委員会教育環境部会の2回目の会議になります。1回目は書面での開催でしたので、部会員が対面で一同に会するのは本日が初めてになります。この部会では、教育環境の面から、登別中学校の統合について議論するわけですが、個人的には、早い段階で登別中学校の今後のあり方を決定するのが、子どもたちにとっても、保護者にとっても良いのではないかと考えておりますが、様々な意見があろうかと思っておりますので、この部会で議論を尽くしていこうと考えております。

さっそく議事に入りますが、今回は、他校で学校統合を経験した教員の方の話を知りたいということで、鷺別中学校の縣先生をお招きしております。

縣先生は、登別中学校でも勤務の経験があり、ちょうど旧登別温泉中学校が統合した年に新任で本校に赴任されたということです。その後、室蘭市立北辰中学校において、港南中学校との統合を経験されたということです。本日は、その際の経験を中心にお話を伺えればと思います。縣先生のお話の後、質問や意見交換の時間を設けますが、あまり堅くならず、ざっくばらんにお話をできればと考えております。それでは、縣先生、お願いします。

縣先生: こんにちは。現在、鷺別中学校で教諭をしております縣です。現在42歳で、教員になって19年が経ちました。

大学卒業後は、札幌や小樽で期限付教員として働いておりましたが、平成16

年度に正式採用となり、初めての勤務地として登別中学校に赴任いたしました。登別中学校では5年間勤務しまして、その後、室蘭市の北辰中学校に赴任し、統合後の室蘭西中学校と合わせて11年間勤務いたしました。その後、鷺別中学校に赴任し、現在に至ります。

本日は保護者の方が多く参加されていることと思いますが、私も子どもが3人おりまして、一番上が高校1年生、2番目が中学校2年生、3番目が小学校5年生、皆様と同じように子を持つ父でもありますので、親御さんたちの気持ちも理解出来るのかなと思っています。

登別中学校は、教員としてスタートをきった学校ですので、自分にとっては母校みたいなどころがありまして、未だに校歌が歌えるぐらい思い入れのある学校です。自分がまたこうやって関わる事が出来たことを嬉しく思っております。

最初に登別中学校時代の話をしていただきます。紹介していただいたように、私の赴任した年がちょうど旧登別温泉中学校と統合した初年度でした。温泉地区の生徒がバスで登下校をすることになったわけですが、それまで経験の無いことでしたので、保護者の皆さんは心配して見守ってらっしゃいました。

最初のうちは、集団の中でも温泉中学校から来た子どもたちという感覚で捉えられている印象がありましたが、生徒同士の垣根はそれほど時間もかからずになくなったと思います。やはり子どもたち同士の打ち解ける速度というのは、大人には計り知れないものがあるのだと思います。

新任の私にとってみれば、登別中学校での教員生活はすべてが新鮮で新しい体験だったわけですがけれども、登別中学校としても、新たに地獄祭りに参加したり、熊舞に取り組んだり新しい文化が入ってきたところがあり、地域の方々に学校活動に参加いただき、熊舞を指導していただいたり、鬼踊りを教えていただいたりする中で、教員以外の大人と交流し、褒められたりするということが、子どもたちにとっても新たな経験になっていたという印象があります。また、旧登別温泉中学校の文化が新たに取り入れられる中で、子どもたち同士の距離もどんどん縮まっていったという印象があります。その結果、一学期が終了する頃には、出身校の隔たりは無くなっていたと思います。その後、登別中学校には合計で5年間勤務したわけですが、旧校区の隔たりは全く無くなりました。その当時の登別

温泉小学校では、鬼っ子マーチングバンドの注目度が高く、吹奏楽が人気でしたので、登別中学校でも吹奏楽が盛んになり、地域の強豪校になるといったこともありました。子どもたちが部活動の中でどんどん仲良くなっていった印象がありました。

次に、北辰中学校時代の話に移ります。登別中学校から北辰中学校に転勤し、港南中学校との統合後、引き続き室蘭西中学校に勤めることになるわけですが、その当時（平成25年）、北辰中学校は各学年1クラスでした。

港南中学校は各学年2クラスでしたので、統合により3クラスになりました。当時、北辰中学校は1学年1クラスなので、合唱コンクールをしても、体育大会をしても、常に勝つのは3年生で、1、2年生はなかなか伸びない。3年生も切磋琢磨というものが無いので、勝って当たり前前の状態で、あまりモチベーションが上がらない状況でした。

統合前の北辰中学校では、私も担任をやってましたが、どうせ3年生が勝つんでしょという感じで、なかなか子どもたちの頑張りを引き出せなかったのを覚えています。テストの順位にしても、クラス内部の順位そのものになってしまいますので、生徒同士の切磋琢磨というのは無い状況でした。和気藹々としてはいるのですが、部活の上下関係だとか、先生に対する敬語だとか、そういったものを学ぶには少し足りないという印象がありました。

その後、港南中学校と統合し、室蘭西中学校が開校したわけですが、学年3クラスになって、行事はとにかく盛り上がりました。隣のクラスに負けたくないの一生懸命やるとか、合唱は隣のクラスより大きい声を出してみようだとか、子どもたちの行事に取り組む姿勢が目に見えて違いました。また、部活動についてですが、北辰中学校時代は運動部が2つしかなかったところ、統合によって一気に5つに増えました。子どもたちは、部活動の選択肢が増えたことを非常に喜んでいました。当時、北辰中学校でバレー部の顧問をやっていたのですが、部員が2人しかいないような状況だったのが、統合後はチーム編成が可能になりました。これはバレーに限らずですが、集団競技については、子どもたち自身も統合して良かったという感想を持っていたようです。また、教員目から見て大きく変わったのが、子どもたちのリーダーシップでした。集団が大きくなったので、行事

を通して生徒会の役員や各クラスの委員長が多くの人を前にして話すようになり、そうした経験が子どもたちのリーダーシップを育て、教員としても、子どもたちの成長を強く感じました。もう一点、大きく変わったのが、クラス替えが可能になったということでした。子どもたちにとっては、クラス替えが大きな楽しみになりましたし、人間関係の固定化を避けるという意味でも非常に良かったと思います。

また、我々教員にとってみれば、教員の数が増えたことが大変有難かったです。私は数学の教科担任なのですが、習熟度に応じて、1クラスを半分に分けた少人数指導をしばしば行うわけですが、北辰中学校時代は数学の教科担任が私1人という状況でしたので、そうした学習形態を採ることも難しい状況でした。それが、統合によって教科担任の数も増え、多様な学習形態を採ることが可能になったというのが大きなメリットとしてありました。また、教員の経験という意味では、教科担任が複数いることで、教員同士が相談しながら指導方法を検討できるという面がありましたし、研修にも参加しやすくなったという面があり、研鑽を積みかせていただきました。

全体を通して見ても、生徒にとっては、学習や行事、部活動の面で統合のメリットが非常に大きかったものと思いますし、これについては、いま振り返っても同じ感想を持っています。以上になります。

部会長: 縣先生、ありがとうございます。ここからは質疑応答の時間になりますが、先生の話聞いて、委員や保護者から質問や意見などありましたら、挙手でお願いします。

委員: 先ほど、平成16年に登別中学校と温泉中学校が統合になった時にいらっしゃったという話をされておりました。その時は登別中学校は1学年何クラスだったんでしょうか？

縣先生: 各学年1～2クラスでした。

委 員: 温泉中学校が統合されたときに、クラス数は変わったんでしょうか？

縣 先生: 変わりませんでした。

委 員: ありがとうございます。先生の話聞いて、なるほどなという部分があったことはもちろん、私が心配しているよりも、統合によるメリットが非常に多いのは確かなのかなという印象を受けましたが、逆に統合によるデメリットはありましたか。統合しなければ、こんなことができたのにとか、統合前の学校のこんなところが良かったといったところがあれば教えてください。

縣 先生: 実はあまり無かったですね。前の方が良かったなという感覚はありませんでした。一般的に見れば、統合で通学時間が長くなってということが想像されると思いますが、バスで通学しますので、通学時間自体はあまり変わっていませんし、通学も含めて、統合によるデメリットというのは思い浮かばないというのが正直なところです。

部 会 長: 他にありませんでしょうか。

保 護 者: 子ども3人のうち小学校で2人、中学校で1人がお世話になっており、特に下の子2人は統合の有無に大きく影響を受けることになります。非常に現実的な問題なのですが、在校中に統合となった場合、内申点はどのように扱われるのでしょうか。例えば3年生の時に統合となった場合、1年生と2年生の時は、統合前の学校で評価され、3年生から新しい学校で評価されることになるわけですが、登別中学校では比較的高い評価を受けていたものが、統合後の学校は人数が多い分、学力レベルも高いでしょうから、評価が下がってしまい、内申点に影響が生じるのではないかとということを心配しています。実際に、先生のご経験ではどうだったのでしょうか？

縣 先生: 内申点についてですが、例えば1、2年生の時に前の学校で取った成績という

のはそのまま使われ、3年時は新しい学校での評価を用いることとなります。ご心配のところですが、現在は絶対評価で成績評価を行っておりますので、周りの学力レベルは関係無しに、文部科学省が定める基準を基に、その子の成績のみに着目して評価することとなります。過去には相対評価が行われていましたので、学校全体の学力レベルが変われば、個人の評価も変化するということがありましたが、現在の評価方法ではそのようなことはありませんし、実際に統合の際にも、大きく評価が変わって問題になるということはありませんでした。また、統合時には、冊子を作るなどして、成績の評価方法に関する保護者説明はかなり丁寧にやりましたので、保護者から不満の声があがるということはありませんでした。

保護者： 中学生になると受験が絡んできますので、非常にシビアな問題になるわけですが、そのあたりのフォローを丁寧にやられたのですね。もう一点、制服やジャージはどうされたのでしょうか？

縣先生： 2、3年生は前の学校の制服・ジャージをそのまま使用し、1年生は新しいものを着るという対応でした。

保護者： わかりました。1年生の制服というのは新しいものですか、それとも統合前のいずれかの学校の制服を使用したのでしょうか？

縣先生： 新しいデザインのものになりました。

部会長： 他にありませんでしょうか。

保護者： 中学2年生の息子と小学1年生の娘がいます。私自身ここが地元でして、同じ小学校、中学校を卒業しました。ここは地域ぐるみで観光業に支えられている町です。今日のテーマとは違うのかもしれませんが、私は従業員を使っている立場として、近隣の方たちと同じ学校に子どもさんたちが集まったときに、行事が重なってしまいますので非常にシフトが組みにくくなるだとか、学校が無くなった時にここに住

むメリットが無くなって離れていってしまうのではないかと、そういったことを心配しています。そうした地域との関わり方も含めて、学校が無くなるのは個人的に寂しい思いを持っております。例えば、登別温泉中学校が統合となった際には、熊舞や地獄祭りでの鬼踊り、そうした温泉中学校の伝統を登別中学校に引き継いだわけですが、そうした取組があれば、子どもたちにも、また、地域に住む方にももう少し理解を得られるのかなと思います。子どもたちは、小さなところに育ったからといって、リーダーシップがないわけではないですし、大人数の中で学べるのが良いことばかりではなく、大きな集団に馴染めない子も中にはいると思います。恐らくうちの息子もその部類に入ってしまうのかなと思っておりますが、そういった子どもたちにとっては、少人数だからこそ注意を配ってもらっていた部分があるわけで、統合して大きな学校になれば、切磋琢磨する機会は確かに生まれるのかもしれませんが、逆に集団に入っていけない子ども居ますので、統合で先生の人数が増えるのであれば、そうした子どもへのケアもしっかりとやる必要があると思います。

縣先生: 統合直後の子どもの様子には非常に気を配っておりました。授業以外の時間、休み時間などでの子どもの動きには特に気を配っておりました。これもまた教員が多かったのが良かったのかもしれませんが、当時は休み時間も生徒と遊ぶなど一緒に過ごし、先生方の目が必ずどこかにあるような状態になるよう注意しておりました。ご指摘の部分で言えば、統合前の北辰中学校では、少ない人数だったので手厚くよく見ていたとか、授業中声をかけやすかったというのはあるのかもしれませんが、全体を通して見れば、人数が多いことによる良い効果の方が大きかったと思います。例えば、発表活動や地域での調査活動などを行う際には、大きな集団で行うことで、様々な発想に触れることができますし、生徒にとって代えがたい経験になります。また、生活面で言えば、集団が大きくなることによって、人間関係が固定化しにくくなったと思います。女の子の場合は特にそうですが、統合前の学校では、クラス替えもありませんので、同じグループで3年間過ごす傾向が強かったわけですが、そうした傾向が弱まり、子どもたちも様々な経験をすることができるようになったと思います。

保護者: 先生の話聞いて、出会いの場が増える状況になるというのは、聞いていてワクワクしました。統合が子どもに与える影響は人それぞれだと思います。メリットになる子もいれば、デメリットの方が大きい子もいると思うんですけども、長い目で見れば、いずれは狭いところから広い社会に出て行くことになりますので、早い段階でそういう状況を体験しておかなければいけないのかなという思いはあります。女の子で集まって凝り固まっていた状況が、統合で人数が増えることによって風通しが良くなったというお話でしたが、それはすごく良いことだと思いました。社会性を養うには、人と交わる親和力を身につけてもらうのが重要だと思っています。もちろん学力も大事ですけども、学校生活を通してそうした力を身につけることがより大切だと思いますので、今日のお話は非常に参考になりました。

保護者: 登別温泉小学校を卒業して、中学校1年生から登別中学校に通いました。自分の小学校でも友達と溶け込めない友達がいましたが、統合したことによって、人と付き合いが上手くできない子ども同士が集まって、友達が増えるということがありました。学校に行くのが嫌な子どもたち同士が友達になれるというのも、プラスだったと思います。また、部活動の選択肢が増えましたし、バスで通学することも苦ではありませんでしたので、自分にとって統合はメリットしかなかったと思います。イベントや行事についても、温泉小学校では常に小人数だったわけですが、統合によって人数が増えて盛り上がりましたし、統合については、メリットしか感じられませんでした。デメリットと言われても思い浮かばないというのが正直なところです。

委員: 先生の話聞いていてあらためて思ったのは、統合は、教員にとっても、子どもたちにとっても大変なことなんだなと。私は教員経験者で、学校統合についても、2度ほど経験しております。統合時に一番心配なのは、子どもたちの心がどこにあるのかということです。そういうことを教員がわからないで、問題が生じてから対応するのでは遅すぎます。事前に統合の時期は分かっているわけですから、どういう手立てで子どもたちとの距離を縮めるか、子ども同士の距離感をどのようにして縮めるのか。子どもの心をどこで受け入れるのか、そういったことをきちんと職場

の中で設定しておかなければならないと思います。保護者が知らない、先生が知らないところでいじめが発生している状況をあちらこちらで聞いていますので、そうした声を出せない子どもたちをどのように見つけて、どのように対応するのか、そこはすごく大事だと思います。そうした意味でも、私が一番感心したのは、先生方が休み時間に一緒に遊ぶことによって、生徒の状況に目を配り、生徒との距離を縮めていたということ。こういうことは非常に大事だと思います。もう一点、子どもの声を聞くと同時に保護者の声を聞くということが非常に大事だと思います。私も保護者から様々な声を聞きました。統合した当初は学校ごとにグループができて、過ごし辛さを感じるような状況もあったようです。そうしたことを保護者から実際に聞いたりもしました。そうした学校ごとのグループは時間とともに解消するのですが、子どもが成長した段階でも心に残ることが考えられるので、そのあたりは丁寧にケアしていかなければならないと思います。

委員： 一番下の子が小学校に入学して1年生を迎えています。ちょうど中学校に通う頃には一番影響があるのかなと思いながら、話を聞かせていただきました。委員がおっしゃったように、皆さんのお話からは、メリットしか聞こえてこないなって、本当にデメリットってないのかという不安はすごくあるのですが、みなさんがおっしゃるといことは、やっぱりお話にもあったように子どもたちにとっては、メリットがより大きいのかなと。一番上の子は既に高校を卒業しているのですが、登別小学校、登別中学校と、常に一クラスで育ってきていたので、高校に入った時に、あまりの人の多さにちょっと孤立する部分があったと聞きまして、そういう意味でも、高校に入る前のステップアップとして、小学校から少し大きな集団である中学校に行く、そうすれば高校に行く時にも環境に慣れやすくなるのかなということは強く感じています。今日お話を聞いて、親が思っているより、子どもたちは溶け込む能力があるのかなということもあらためて感じました。ただ、ちょっと寂しく感じるのが、今までは登別温泉も含めて登別地区だったのが、さらに幌別地区となったときに、地域とのつながりがどうなっていくのかということです。一方で、子どもたちにとっての環境という意味では、統合が良い影響をもたらすのではないかも思いました。

委員: 今日ありがとうございます。私は幼稚園年長と小学校2年生の親ですけども、お話を聞かせていただいた中で思ったのが、子どもなので環境が変わってもやっていけるのかなど。そういったことは親として心配はしておりません。ただ、個人的な話になりますが、私は3年前に道外からこちらに引っ越して来ました。ここに引っ越して来るにあたっては、幼稚園があって小学校があって中学校があるということでこの地区を選びました。様々な理由があって、統合が検討されているのですが、統合することがわかっていれば、恐らくここを選んでいない可能性が高かったかなというのがあります。それは結果的にということですので仕方ないことではありますが、懸念するのは、幌別中学校と統合となれば、幌別地区に新しい友達是可以するのですが、この地区の友達はいなくなってしまうのではないかとということです。中学校が無くなってしまえば、この地区に新しく住む人はいなくなってしまうので、この地区に住む友達がいなくなってしまう。そうなれば友達は幌別地区が中心になってしまうわけですが、地形的に気軽に行ける距離ではありませんので、友達と遊ぶということ自体が無くなってしまわないか。そういったことを懸念しています。もう一点、先生にお聞きしたいのですが、統合の話が出た最初の段階で、市や教育委員会において、学校を存続させるために、町ぐるみで人を呼ぶ努力をしようといった話題が出たのかどうか、お聞きしたいと思います。例えば、3年間猶予期間を設定して、その間に子どもの数が増えなければ統合するといった話は無かったのでしょうか？

縣先生: 私が北辰中学校に赴任した時には既に統合が決定していましたので、統合が決定する前の議論については承知しておりません。もう一点、友達との繋がりの部分ですが、統合によって校区が大きくなりますので、子どもたちは校区内の様々な場所のお祭りに参加したりといったことがありました。室蘭市の場合には、路線バスに乗ることのできるパスを配っておりましたので、そのパスを使って友達の所に遊びに行ったり、お互いの町のお祭りに行ったりということがありましたので、ご心配のように、統合によって友達と遊ぶ機会が減るといったことは無かったと思います。

委 員: お話を聞いていると、統合によるメリットの部分の話ばかりなのですが、デメリットは本当に無いのでしょうか。少しデメリットの部分の話を聞きたいのですが。

縣 先 生: 強いて挙げれば、教員の立場からすれば、家庭訪問の範囲が広がったということぐらいでしょうか。

保 護 者: デメリットがあるとしたら、子どもというよりは、大人の側なのかなと思います。私自身、友達と遊ぶ時には路線バスがあればバスを利用していましたが、父が登別地区に買い物などで下りて来ている時には乗せてもらってということもあり、親にも頼りながら臨機応変に対応しておりました。ただ、やはり親に頼らざるを得ない部分は一定程度出てくると思いますので、運転が得意じゃないお母さんにとっては、負担になる部分もあるのかなとは思いますが。ただ、仮に幌別中学校と統合になった場合、登別－幌別間は運転が苦手な人でも苦にはならない距離だと思うので、それもデメリットにはならないのではないかととも思います。

保 護 者: 小学校2年生と3年生の孫がおります。メリット・デメリットですが、私は温泉の出身なもので、私が中学生の時にカルルス温泉小学校が温泉小学校に統合になりました。その当時を考えて見ると、どんな子が来るのかなっていう、好奇心というかわくわくした気持ちで、受け入れる方はどちらかという楽しみにして受け入れたと思っております。また、温泉中学校が無くなる時も、私の子どもが登別中学校に在籍しておりましたので受け入れる側の立場でしたが、受け入れる側には大きな抵抗感は無かったと思います。ただ、今回、仮に統合ということになれば、我々が幌別中学校に行く側になるわけですが、その立場としては、通学の手段はどのように整備されるのか、特に部活が終わった後にも通学バスは出してもらえるのか、統合する際に教育委員会でどの程度交通手段を確保してくれるのか、その点を一番不安に感じています。子どもの数が少なくなれば、中学校が無くなるのは仕方ないことなのかなとは思いますが、本音を言えば、どうにか残して欲しいというのが正直な思いです。縣先生にもうひとつお聞きしたいのですが、部活動終了後の下校などの際に不便な点は無かったのでしょうか？

縣先生: 通学バスについては、統合時にダイヤの調整を担当しておりました。その際には、部活動に所属している生徒の人数、そのうちバスを使用する生徒数、部活動の終了時間などをすべて洗い出し、月ごとに運行計画を作りました。その結果、基本的にバスを利用する全生徒が希望する時間に通学バスに乗車して下校できていました。仮に統合となる場合には、登別市でも可能な対応ですし、是非必要になってくると思います。

保護者: ありがとうございました。もう一点、説明会を開催してもなかなか人が集まらないので、是非学校の方をお願いしたいのが、保護者を対象にアンケートを実施してもらいたいということです。

保護者: 縣先生は登別中学校での経験もおありで、地域柄も理解されていると思うのですが、仮に登別中学校が幌別中学校に統合し、この地区から中学校が無くなった時に、この地域はどのようになると感じられますか？

縣先生: 校区が広がることによって、登別地区以外の子どもたちがこの地区に遊びに来る機会も増えることになると思います。登別地区の友達と漁港祭りに来てみたりだとか、JR登別駅前に新しくできるヌプルに来てみたりだとか、校区が広がることによって、今まで来なかった子どもたちがこの地区を訪れることになります。そうした子どもたちが登別地区を知ることによって、この地区の魅力を他に広めたり、大人になって戻ってきたりということに繋がるのではないのでしょうか。

保護者: ありがとうございます。もう一点、仮に統合ということになった場合には、子どもたちに、統合によってこんな風になるという良い面をたくさん聞かせてあげたいと思います。そうした意味で、例えば北辰中学校のときに生徒はこうだったけど、室蘭西中学校になり、集団の中で切磋琢磨することによって、子どもたちがこんな風にならなくなったというような例があればお聞きしたいと思います。

縣先生: 先ほど行事の面では変化が大きかったという話をしました。もう一点大きかったのは部活動でした。人数が増えることによって、レギュラー争いが生じたり、団体戦が可能になったり、チームが強くなるということも実際にありましたので、部活動での切磋琢磨というのは強く感じました。また、学習面については、切磋琢磨によって、学習意欲が高まっている例は多々ありましたが、全員というわけではありませんので、これに関しては一概には言えないと思います。やはり行事と部活動については、統合で集団が大きくなることにより切磋琢磨が生じ、子どもたちに明らかに良い影響が生まれていたと思います。

部会長: ありがとうございます。縣先生や皆さんの話を聞いてあらためて感じたのは、子どもたちにどんな風に育って欲しいのか、どんなことを学んで欲しいのか、どんな地域性を感じてほしいのか、それをまずは考えなければならないということです。そうした議論を重ねた上で、統合が必要なのか否かという議論に繋げることができればと思います。正直に言えば、子どもたちの数が減るのは、10年前、20年前からわかっていたことであって、わかっていたにも関わらず、対策を講じてこなかった。それは市もそうですし、私たちもそうだと思います。その結果、こんなに地域性が豊かでアットホームな学校の存続を議論しなければならない状況になってしまっている。それは私たちや私たちの上の世代の人達がそうした問題にアプローチできなかったことが問題だったわけで、そのことを非常に悔しく思いますが、いまできることは、この状況の中で子どもたちにとってより良い環境を用意してあげることだと思います。そのためにも議論を重ねていきたいと思いますが、今回は、旧登別温泉中学校の同窓生の話聞いて参考にしたいと思います。

事務局: 事務局より次回のお話をさせていただきますが、その前に一点アンケートをしてみてもどうかという話があったのですが、実は教育委員会として、登別中学校の保護者の方々にアンケートを実施しております。その結果については、登別小学校・登別中学校の保護者の皆様にニュースレターという形でお知らせしておりますので是非ご覧いただければと思います。ただ、説明会同様、回収率が芳しくありません。改めて実施することがありましたら、是非ご協力をお願いしたいと思っております。

それでは次回についてですが、次回は、旧登別温泉中学校の同窓生の皆様をお招きしまして、小規模校での経験などについてお話を伺いたいと思っております。現在の予定では、4名の方にご参加いただけることになっております。そのうちの2名は、旧温泉中学校在校中に登別中学校との統合を経験された方ですので、統合に関するリアルな話が聞けるのかなと思っております。

次回につきましては、来週の水曜日6月1日の18時から、場所については本日も同様、婦人センターで実施する予定です。よろしくお願いいたします。

部会長: 私たちは、子どもたちの未来に触れているなとつくづく感じます。そうした意味でも、議論をしっかり深めて、子どもたちが不安を抱かないようにしたいなと思います。子どもたちが自分のやりたいことを自ら見つけ、自分のやりたいことができる力を身につけられる環境を作ってあげたい。そのために部会での議論を進めていきたいと思えます。本日はありがとうございました。